

# 新宮城下町遺跡発掘調査現地公開資料

平成 31 年 3 月 2 日 (土)

主催：新宮市教育委員会

(公財)和歌山県文化財センター

新宮市教育委員会では、(公財)和歌山県文化財センターに委託して、新宮城下町遺跡の調査を実施しています。調査地は、旧丹鶴小学校敷地の西側の約 3,500 m<sup>2</sup>です。すでに調査区南側 4 分の 3 の範囲の調査はほぼ終了し、現在は調査区北端部の調査を行っています。

## ○調査の成果

調査区北端部には、以前小学校校舎があり、その基礎の下層から地下式倉庫や通路、石垣などの遺構を確認しました。地下式倉庫は複数が見つかり、「倉庫群」と見られます。これまでの調査でも地下式倉庫は数多く見つかり、当地が港であったことを裏付ける遺構です。北端部で新たに発見された地下式倉庫のほとんどが、石積みのもので、通路は石段を伴い、熊野川へと下っています。石垣は通路に直交して築かれており、川に向かって段状に敷地が造成されていたことがわかります。これらの遺構が整然と配置されており、中世の港の構造が窺えます。

これらの遺構の時期については出土した遺物から室町時代後期(15 世紀～16 世紀前半)と考えられます。付近からは、数多くの土器、陶磁器のほか、鉄製の短刀も出土しています。



調査範囲(橙色)と遺構の位置(緑色)



①地下式倉庫(石組)



②地下式倉庫(焼けた痕)



③通路(石段)



短刀(鉄製)